

2014年度会派視察

北九州市・福岡市 視察報告書 (北九州編)



視察年月日：平成26年4月2・3日(北九州市)4日(福岡市)

江東区議会民主党
鈴木綾子

北九州市・福岡市視察

視察調査項目と訪問先(北九州市)

日 時 : 2014年 4月2日(水)~4月3日(金)

場 所 : 福岡県北九州市(4月2日・3日)

福岡県福岡市(4月4日)

参加者:江東区議会民主党 福馬恵美子議員・鈴木綾子議員

北九州市視察(1日目・2日目)

1. 門司港レトロ観光まちづくりについて

日時: 4月2日 (水) 15:00~17:00

場所: 北九州市産業経済局 観光にぎわい部 門司港レトロ課

対応者: 門司港レトロ課 豊永聰信課長 村崎敏郎係長

2. 次世代エネルギーに対する先駆的取組について

日時: 4月3日 (木) 9:30~11:30

場所: 北九州市 エコタウンセンター

現地視察①風力発電事業 (工又エスウインドパワーひびき)
②北九州市市民太陽光発電所

対応者: ひびき灘開発株式会社 開発企画部開発企画課
エコタウンセンター 緒方祐希 様



北九州市視察：北九州市の概要

北九州市について

- 人口：96万6,355人（2014年3月1日）
- 面積：489.60km²

北九州市は、1963年に5市（門司市・小倉市・戸畠市・八幡市・若松市）による新設合併により発足した福岡市北部の政令指定都市。非都道府県庁所在地としては西日本最大の都市で。また、隣接する山口県下関市と北九州市を中心とした関門都市圏は約220万人の人口を擁し、非都道府県庁所在地としては日本最大の規模を誇る。

九州の玄関口に位置し、九州における主要な国道や鉄道路線の起点であり、関門海峡に面することから海上交通の要所でもある。古くから物流・港湾都市として栄え、八幡製鉄所を中心とする製鉄業など、工業都市としても発展したが、1950年以降、深刻な公害問題が発生。産学官民の力により郊外を克服し、現在では、環境は改善。経済協力開発機構（OECD）のグリーン成長モデル都市にアジア地域で初めて認定されるなど、環境先進都市としての再生を果たしている。

近年では北九州エコタウンなどの環境ビジネスの集積や、門司港レトロ地区など、観光事業の取組を積極的に行っている。



写真：門司港レトロ地区（左・中上・中下） エコタウンの風力発電（右）

北九州市視察：1. 門司港レトロ観光まちづくりについて

歴史的建造物や、恵まれたウォーターフロントの環境を活かし、行政や観光協会、地域まちづくり団体や民間企業が連携したまちづくりを行い、成功している事例として、門司港メトロ地区を視察。

門司港の歴史（門司港の繁栄と衰退）

①門司港の繁栄（明治～大正時代）

- ・門司港は、明治・大正時代は日本を代表する貿易港。
- ・明治22年には横浜、神戸とともに「国の特別輸出港」に指定。
- ・鉄道の拠点となり、九州の陸・海の拠点。
- ・大手金融資本、商社が進出し、街並が西洋化。

②門司港の衰退（昭和）

- ・昭和17年（1942）関門鉄道トンネル開通
- ・昭和33年（1973）関門国道トンネル開通
- ・昭和48年（1973）関門橋開通

鉄道や国道などの発展により、九州の拠点が博多へ移り、衰退。

事業決定の経緯

①計画策定の背景

- ・拠点が博多に移ったことで、解体の危機にさらされた歴史的建造物
- ・国鉄の民営化に伴うJR九州本社中枢部の福岡市への移転。
- ・区（旧自治省）が地域の特性を活かしながら自治体が自らの企画で行う事業を財政面で支援する「ふるさとづくり特別対策事業」を創設

②事業実施の機運の高まり

- ・歴史的建造物と大正ロマンあふれる街並とウォーターフロントの美しい自然景観を活かしたまちづくりを進めようとする機運が高まる。

③門司港レトロ整備計画の策定

- ・歴史と自然を生かした「ふるさとづくり特別対策事業」
- ・門司港レトロめぐり海峡めぐり推進計画（昭和63年承認）

→第1期事業（300億円・公共）

第2期事業（公共125億円・民間143億円）の事業を実施

事業コンセプト：「衰退する門司港の活性化」

- ・歴史のいきづく大正ロマンのまち
- ・うるおいと活気に満ちたウォーターフロント
- ・特色ある文化創造の拠点

出典：門司港メトロ課提供資料

北九州市視察：1. 門司港レトロ観光まちづくりについて

門司港レトロ第1期事業

- 事業期間：昭和63年度～平成6年度
- 総事業費：300億円（公共）
- 主な事業：歴史的建造物の保存・道路整備・港湾整備等

門司港レトロめぐり海峡めぐり推進事業(約93億円)

- ・「旧門司三井俱楽部」(国指定重要文化財)の移築修理(H6完成)
- ・「旧大阪商船」の修復(H6完成)
- ・レトロプロムナードの整備(H5完成) 電線の地中化(H5完成)
- ・めかり回遊路、展望台の整備(H5完成)
- ・観光施設などへの案内板の設置(H2完成)

大連歴史的建造物建設事業(約13億円)

友好都市である中国・大連市との交流促進とレトロ地区の魅力向上のため、大連市にある歴史的建造物の複製を建設し「国際友好記念図書館」として活用。

西海岸地区再開発事業(約130億円)

- ・港湾緑地等の整備(ウォーターフロント)(H4完成)
- ・門司港第一船だまり「親水護岸広場」の建設(H4完成)
- ・門司港第一船だまり「はね橋」の建設(H5完成)
- ・「旧門司税関」の修復(H6完成)

都市計画道路整備事業(約45億円)

門司港駅周辺の通過交通量を緩和するバイパスの建設(H7完成)

レトロ業務ビル建設(約14億円)

旧門司三井俱楽部の移築工事など公私事業による移転者を受け入れるため

出典：門司港メトロ課提供資料

第1期整備は、「歴史的建造物の保存」であり、観光地の整備は目的としていなかった。

末吉北九州市長の1期目の政策として、「ふるさとづくり特別事業」（20年償還で利子据置+補助事業）として実施。

魅力的なまちなみを再現できたことにより、事業開始前に年間25万人だった観光客が、第1期最終年度には107万人に増加。

当時はハウステンボスなどヨーロッパの街並が集客要素となったことも要因である。当初は観光地に発展することが想定されていなかったため、様々な課題も生まれた。



写真：門司港メトロ第1期事業で整備された「国際友好記念図書館」・「はね橋」

北九州市視察：1. 門司港レトロ観光まちづくりについて

門司港レトロ第2期事業

これまでの成果や課題を踏まえ、今後の門司港地区全体の観光振興について、その方向性や全体像を示す第2期計画を策定。

- 事業目的：滞在型観光拠点の整備及び快適居住空間の整備。
- 事業期間：平成9年度～平成19年度
- 総事業費：約268億円（公共 約125億円・民間143億円）

回遊性の向上、及び滞在時間の長時間化

- ・「門司港レトロ展望室」の整備(H11完成 約8億円)
- ・夜間景観「門司港レトロナイトファンタジー」の整備(H13完成 約2億円)
- ・「サイクリングロード・遊歩道」の整備(H16完成 約17億円)
- ・関門海峡ミュージアム(海峡ドラマシップ)の整備(H15完成 約100億円)
- ・旧九州鉄道本社(九州鉄道記念館)の整備(H15完成 約10億円)

既存構想の促進・支援

- ・「門司港ホテル」の整備(H10完成)
- ・「海峡プラザ」の整備(H11完成)
- ・「出光美術館」の開館(H12完成)

地元商店街の活性化、及び民間投資の促進

- ・「観光物産館」の整備(H10完成)
- ・既存商店街を結ぶ「港町4号線」の整備(H15完成)
- ・駐車場、トイレの整備(H15完成)

出典：門司港メトロ課提供資料

第1期整備が観光地としての整備でなかったにも関わらず、観光地として多くの集客を集めたことから、観光地に必要な公衆トイレ・食堂・ホテル・駐車場などを整備する必要が出てきた。

第2期では、これらの対応を行い、快適な観光振興を促進する為の整備。門司港ホテル・門司港レトロ展望室・海峡プラザ駐車場・トイレの整備、門司港レトロ列車の運行などが主な事業内容。

第2期は、公共事業・民間事業あわせて268億円の投資が行われた。この結果、観光客は210万人に増加。



北九州市視察：1. 門司港レトロ観光まちづくりについて

門司港レトロ観光まちづくりプランの推進

■計画策定の目的

今後の門司港レトロ地区の魅力を一層向上させるため、現状及び課題を踏まえ、将来展望を見据えた長期計画を策定。

「観光」と「まちづくり」が一体となった地域の振興

■事業年度：平成20年度から概ね10年間

主要事業

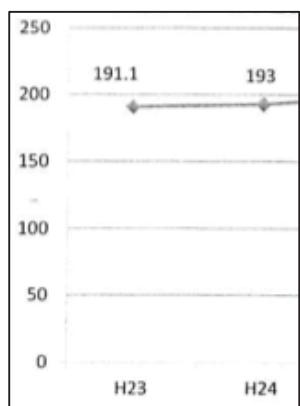
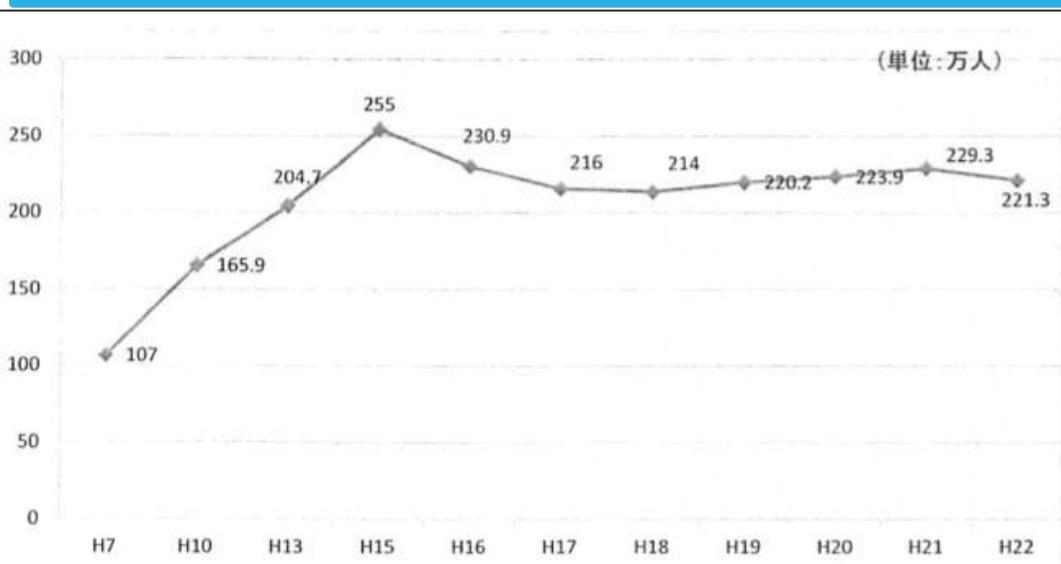
- ・門司港レトロ観光列車「潮風号」の運行
（全国初の観光鉄道として開業（平成21年4月））
- ・旧JR九州本社ビルの保存活用
（平成23年4月暫定活用開始）
- ・旧大連航路上屋の保存・活用（平成25年夏完成）
- ・旧三宜楼の保存・活用（平成25年冬完成）
- ・その他、栄町商店街周辺の活性化、和布刈地区の魅力向上、海外からの観光客の集客・受入体制

出典：門司港メトロ課提供資料

門司港レトロ地区の観光客数の推移

門司港レトロ第1期・第2期の実施により、観光客は平成15年に200万人を突破し、安定した推移を見せている。

平成24年～29年度は、門司港駅保存・改修工事があり、減少要因にもなりうるが、観光客を少しでも増加させるよう、既存の観光施設、イベントなどを少しずつリニューアルしながら、門司港レトロ地区の魅力を維持していくのが課題。



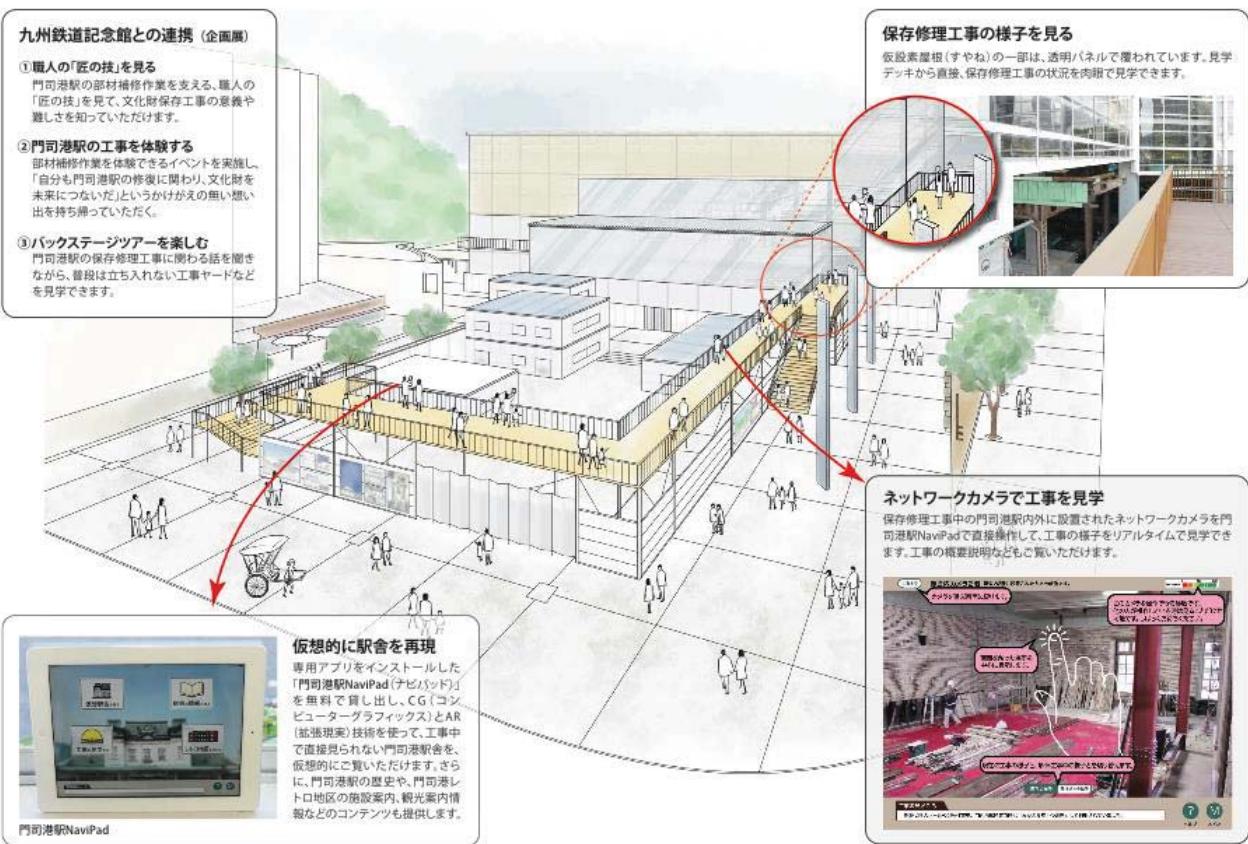
北九州市視察：1. 門司港レトロ観光まちづくりについて

門司港駅本屋建造物保存修理工事への観光対策事業

門司港駅は、平成24年9月に保存修理工事に着工し、現在は工事中の駅舎を保護する素屋根に覆われている状態である。

鉄道ファンや観光客から人気の高い門司港駅の観光客対策として、修理期間中も素屋根内や工事ヤードの様子が見学できる見学デッキのオープンや、ipadアプリによるライブ映像、ipadによる工事前の駅舎を背景とした記念撮影など、ICTを活用した取組を行っている。

門司港駅本屋建造物保存修理工事への観光対策事業



北九州市視察：1. 門司港レトロ観光まちづくりについて

門司港レトロ俱楽部

門司港レトロ俱楽部は、門司港レトロ地区の観光振興と、地域活性化を地元・民間・行政が連携し一体となって推進することを目的に設立された組織で、レトロ地区で行われるソフト事業の中心となっている。

景観や環境・イベント企画や実施、門司港ブランドの開発支援や情報発信など、様々な事業を実施している。

【構成団体】

行政

北九州市(産業経済局、門司区役所、港湾空港局、教育委員会)

関係団体

- ・(社)北九州市観光協会・北九州商工会議所
- ・(財)北九州活性化協議会・(財)西日本産業貿易コンベンション協会
- ・門司港グルメ会・門司文化団体連合会・レトロおもてなしの宿の会

関係企業

- ・JR九州(門司港駅)・門司港開発株式会社・郵便事業㈱門司港支店
- ・関門汽船株式会社・平成筑豊鉄道㈱門司事業所

関係施設・指定管理者

- ・NTT門司電気通信レトロ館・出光美術館(門司)・九州鉄道記念館
- ・B&A門司港・国際友好記念図書館

まちづくり団体等

- ・門司まちづくり21世紀の会・門司港栄町商店街振興組合
- ・門司の躍進を考える会・まちづくり活性化モジ
- ・門司港バナナの叩き売り保存会・門司の景観を考える会
- ・門司港グルメ会・門司文化団体連合会・レトロおもてなしの宿の会

門司港レトロ地区の観光振興と地域の活性化を地元・民間・行政が連携し、一体となって推進することを目的に、設立された組織で、門司港レトロ地区で行われるソフト事業の中心となっている

【主な事業内容】

- ・景観や環境に関する事業(イルミネーション、まちなみづくり協議会)
- ・イベント企画及び実施(門司海峡フェスタ、まち歩きイベントの企画)
- ・産業・開発に関する事業(門司港ブランド開発支援)
- ・情報・育成に関する事業(ホームページ、情報誌発行など)

【事業費】

総事業費2,300万円程度
収入は北九州市、各団体負担金及び協賛金など

門司港いくなら 雑貨とNatural カフェ



出典:門司港メトロ課提供資料 · :門司港レトロ俱楽部関連団体の情報誌

北九州市視察：1. 門司港レトロ観光まちづくりについて

門司港のご当地グルメ「焼きカレー」

門司港のご当地グルメとして、「焼きカレー」がある。

焼きカレーの諸説は様々であるが、「焼きカレー」がはじまったのは、昭和30年代の門司港にあった喫茶店といわれている。

当初はまかないメニューだったが、お店のメニューとして出したところ好評となり、庶民の味、家庭料理として浸透。

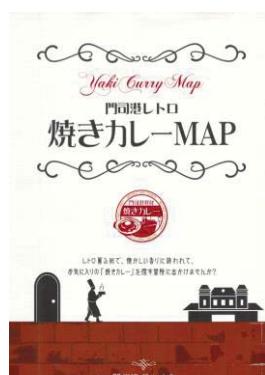
2005年春頃から焼きカレーがメディアで多く取りあげられるようになつた。2006年には焼きカレーを食べられるお店のマップを作成し、2007年には、勝手に使われることがないように、北九州市観光協会が門司港発祥焼きカレーのロゴマークを商標登録した。

焼きカレーの中身は各店毎のオリジナルであり、細かい縛りはない。

門司港メトロでは、門司港グルメ会などが、行政と連携し、観光振興の一環という意味もあり、ブランド化、商標登録、商品開発等ソフト面で、ご当地グルメとしての「焼きカレー」の振興を行つた。

「門司港メトロ焼きカレーマップ」の配布や、門司港と全国のカレーを集めた「門司港カレーフェスティバル」など様々な取組や

焼きカレーの旗と商標を使用している店舗は32～33。ご当地グルメの推進による観光振興や地域活性化を積極的に行う好事例である。



写真：「門司港カレーフェスティバル」ポスター（左）、焼きカレーマップ（中）、ニッスイ門司港レトロ焼きカレー（冷凍食品）パッケージ



参考：江東区のご当地グルメ「深川めし」

江東区の「深川めし」の振興

江東区観光協会では、深川地区に古くから伝わる郷土料理である「深川めし」を区内外にPRし、まちを元気にしていこうとする、「深川めし未来創造プロジェクト」を深川観光協会と連携して実施。

平成26年度には事業の一環として、門前仲町・清澄白河を中心とする深川めしの店24店舗を紹介する「深川めし食べ歩きマップ」の作成や、イベントの実施を行っている。

更新日：2014年3月11日 12時41分

お知らせ

観光マップ・リーフレット

深川めし未来創造プロジェクト『深川めし食べ歩きマップ』が発行されました！

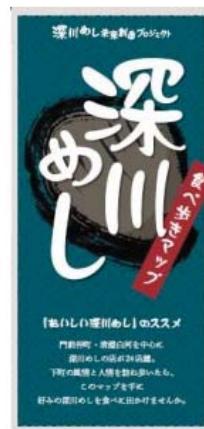
「おいしい深川めし」のススメ

江東区観光協会では、深川地区に古くから伝わる郷土料理「深川めし」に注目し、これを広く区内外へPRして、まちを元気にしていこうという「深川めし未来創造プロジェクト」を、深川観光協会と連携して実施しております。

この事業の一環として、『深川めし食べ歩きマップ』を作成いたしました。門前仲町・清澄白河を中心に、深川めしの店舗を24店舗ご紹介しています。

かつて深川で日常的に食べられていた「ぶっかけめし」や「炊き込みご飯」、そして創意工夫を凝らした「オリジナル深川めし」も誕生し、深川めしのバリエーションもさらに広がっています。

下町の風情と人情を訪ね歩いたら、このマップを手に、お好みの深川めしを探してみませんか。



〈深川めし食べ歩きマップ概要〉

- ・サイズ：A4三つ折り
- ・発行部数：10,000部
- ・料金：無料
- ・配布場所：江東区観光協会事務所、江東区役所、区内文化センター、深川東京モダン館、一部の観光施設やホテル等の区内施設



出典：江東区観光協会ホームページ

北九州市視察：1. 門司港レトロ観光まちづくりについて

所感

門司港メトロ地区の取組は、当初は地域の衰退によって解体の危機にさらされた歴史的な建造物の保存と、大正ロマンの街並を復活させ、街全体を活性化する施策の一環であり、観光振興が目的ではなかったが、美しい街並の復活により観光客が増え、それに対応するために観光振興を実施した、という特徴的な経緯がある。

歴史的建造物の保存や、観光地としてのハード整備の他、美しい街並の復活と門司港地区の歴史的背景が一体化したストーリー性も観光地として成功したポイントであるだろう。

第1期・2期と連続して、まちの活性化から観光振興につなげる継続的努力と行政・民間・地域の連携が成功の要因であると考えられる。

観光協会や門司港レトロ俱乐部などの組織が連携してソフト面での魅力づくりを行い、ガイドマップやパンフレット、WEBなどの情報発信を積極的に実施したり、焼きカレーなどご当地グルメのブランド化、門司港駅舎保存修理工事の観光対策事業など、創意工夫した取組は、江東区の観光施策にも多いに参考にすべき視点である。

江東区も、下町文化と新しい臨海部の魅力を融合した観光振興が、スカイツリー開業・豊洲新市場の移転整備・2020年東京五輪開催等を機に、課題となっており、「江東区観光推進プラン」による区の魅力向上と賑わい創出による観光推進や、オリンピック・パラリンピックに対応したまちづくりの新たな検討がはじまったところである。

観光振興・地域振興をさらにすすめていくためには、まちづくりのハード面とソフト面を融合した継続的な取組と行政・民間・区民との協働が欠かせない。

門司港レトロの取組は、ハード面・ソフト面ともに大変参考になるものだったので、江東区の観光振興にも役立つよう、提言していきたい。



北九州市視察：2. 次世代エネルギーに対する先駆的取組について

環境モデル都市として、日本だけではなく、アジア諸国の低炭素まちづくり推進に積極的に取り組んでいる北九州市の取組として、北九州市のエコタウンセンターを視察。先進事例を江東区の環境行政に活かすことを目的に、北九州市次世代エネルギーパーク事業のヒアリング後、エコタウン内の風力発電事業、太陽光発電の現地視察を行った。

北九州市の公害克服の歴史と環境問題への積極的な取組

北九州市は、1901年の官営八幡製鉄所の創業以来、4大工業地帯である北九州工業地帯として、日本の高度成長期を支えてきた日本のものづくりの拠点であり、鉄鋼、化学、窯業等、日本の産業をリードしてきた。1950年ごろから環境汚染が激化したが、20年間8000億円かけて、官民・市民連携により環境を改善し、公害を克服。公害を産まない技術を生み出した。2008年に政府から「環境モデル都市」として認定。2030年には30%、2050年には50~60%（2005年比）、アジア地域への支援により150%の温室効果ガス削減を目指に掲げ、世界、アジアを代表する環境モデル都市を目指して、日本国内だけではなく、アジア諸国を中心に、低炭素社会の推進に向けた技術協力などを実施している。

北九州市における環境活動の歩み



北九州市視察：2. 次世代エネルギーに対する先駆的取組について

環境未来都市 北九州市エコタウン事業の推進

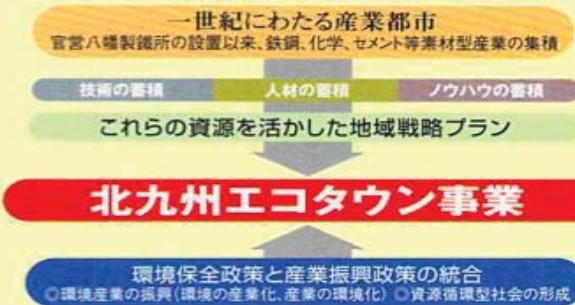
長年にわたる「ものづくりの街」としての産業基盤や技術力、公害克服の過程で培われた人材・技術・ノウハウを活かし、資源循環型社会の構築を図るため、「環境保全政策」と「産業振興政策」を統合した独自の地域政策として、1997年から若松区響灘地区を中心に北九州エコタウン事業を推進。

エコタウン事業の展開

北九州市は、長年にわたる「モノづくりのまち」としての産業基盤や技術力、公害克服の過程で培われた人材・技術・ノウハウ等を活かし、資源循環型社会の構築を図るため「環境保全政策」と「産業振興政策」を統合した独自の地域政策として、1997年7月から若松区響灘地区を中心に「北九州エコタウン事業」を推進しています。

近接する北九州学術研究都市との連携により、環境分野の「教育・基礎研究」から「技術・実証研究」「事業化」に至るまで総合的に事業を展開しています。

●北九州エコタウン事業までの流れ



近接する北九州学術研究都市との連携により、環境分野の教育・基礎研究から、技術・実証研究、事業化に至るまで、総合的に事業を展開。20以上の会社がリサイクルに参加。資源の再利用、リサイクル、ゼロエミッションをエコタウン内で実施。社会システム・市場システム・処理システムをつくり、法律策定にも関わってきた。

北九州市の環境産業振興の戦略

基礎研究から技術開発・実証研究・事業化に至るまでの総合的展開

① 教育・基礎研究

- 環境政策理念の確立
- 基礎研究、人材育成
- 産学連携拠点

北九州学術研究都市

- 大学
 - ・北九州市立大学 国際環境工学部
 - ・大学院国際環境工学研究科
 - ・九州工業大学
 - ・大学院生命体工学研究科
 - ・早稲田大学
 - ・大学院情報生産システム研究科
 - ・福岡大学 大学院工学研究科
- 研究機関等
 - ・福岡県リサイクル総合研究センター
 - ・福岡大学産学官連携センター
 - ・北九州産学連携推進室
 - ・九州工業大学
 - ・先端エコティピング技術研究開発センター
 - ・熊本県立大学
 - ・有菌研究室

② 技術・実証研究

- 実証研究支援
- 地元企業のインキュベート

実証研究エリア

- 福岡大学
資源循環・環境制御システム研究所
- 九州工業大学
エコタウン実証研究センター
- 新日鉄エンジニアリング(株)
北九州環境技術センター
- 福岡県リサイクル総合研究センター
実証試験地
- 各分野での実証研究
 - ・処分場管理技術
 - ・処理困難物の適正処理技術
 - ・廃棄物の再資源化技術
- 北九州市エコタウンセンター

③ 事業化

- 各種リサイクル事業、環境ビジネス展開
- 中小、ベンチャー事業の支援

総合環境コンビナート

- リサイクル工場の集積
 - ・ペットボトル
 - ・家電
 - ・OA機器
 - ・自動車
 - ・蛍光管
 - ・医療用具
 - ・建設混合廃棄物
 - ・複合中核施設
 - ・非鉄金属
 - ・PCB汚染土壤浄化
- リサイクル団地
 - ・地元中小、ベンチャー
 - ・食用油
 - ・有機溶剤
 - ・古紙
 - ・空き缶
 - ・自動車解体、中古部品業者の高度化

響灘東部地区

- リサイクル工場
 - ・バシンコ
 - ・废木材・废プラスチック
 - ・飲料容器・自動販売機
 - ・汚泥・金属等
 - ・風力発電(2カ所)
- その他の地区

- リサイクル、リユース工場
 - ・発泡スチロール
 - ・OA機器
 - ・フォーミング抑制剤
 - ・溶融飛灰資源化
 - ・プラスチック製容器包装
 - ・食品商材

出典:

北九州エコタウン事業 パンフレット
(北九州市環境未来都市推進室発行)

北九州市視察：2. 次世代エネルギーに対する先駆的取組について

アジア諸国の低炭素社会に向けての取組

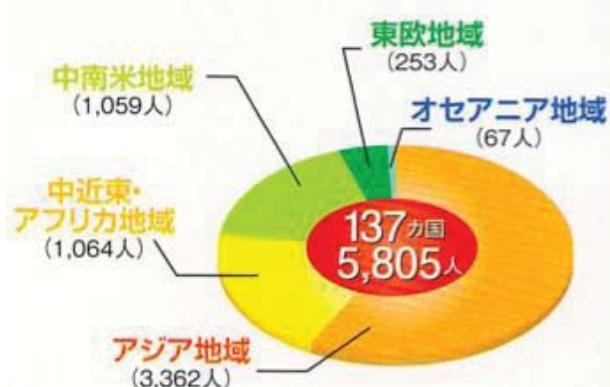
北九州市は、アジアの低炭素社会に向けた取り組みを率先しており、アジア諸国との絆が深い。アジア諸国を中心に環境問題の解決のための協力を実行している。

中国の大気汚染、インドネシアのゴミ問題をコンポスト事業で、カンボジアの水道問題、等をそれぞれの特性を生かした技術力で解決している。北九州市学術研究都市、KITA（北九州国際技術協力協会）等が主体となり、日本の環境技術の発信拠点を担っている。

公害克服の経験を活かした環境国際協力

北九州市は、公害克服の過程で培った技術を開発途上国の環境改善に役立てようと、1980年代から専門家派遣や研修員受け入れなどを行ってきました。また、市民・行政・企業が一体となった環境の取り組みは、国際的にも環境改善のモデルとして高く評価されています。

■ 各国からの研修員の受入実績(2010年3月現在)



■ 国際的評価

1990年	国連環境計画から日本の自治体では初めて「グローバル500」を受賞
1992年	リオデジャネイロで開催された国連環境開発会議（地球サミット）で「国連地方自治体表彰」を日本で唯一受賞
2000年	北九州市で、国連ESCAP「アジア・太平洋環境大臣会議」開催
2002年	ヨハネスブルグサミットで、北九州市の地方自治体支援をモデルにした「北九州イニシアティブ」が実施計画に明記
2006年	ワンガリ・マータイ氏（ノーベル平和賞受賞者）「環境のことは北九州市に聞け」 米国雑誌「TIME」、北九州市を環境改善のモデルとして紹介

エコタウン事業の広がり

エコタウン事業の拡がり

2002年8月に「エコタウン事業第2期計画」を策定し、リサイクルだけでなく新たな戦略のもとに事業を進めています。さらに、2004年10月には対象エリアを市全域に拡大し、既存産業インフラ等を有効活用することにより、環境調和型のまちづくりに取り組んでいます。

北九州エコ・コンビナート推進事業

地域レベルでの省エネ・省資源等を実現する「北九州エコ・コンビナート構想」を推進し、廃棄物や副産物の資源循環や未利用エネルギーの有効活用による新たなビジネス展開や新規事業誘致を目指しています。

北九州エコプレミアム産業創造事業

環境負荷を低減するといった付加価値を持つ市内の商品や技術、産業活動の中から「北九州エコプレミアム」を選定し、市内産業界全体の環境配慮活動を促進しています。

「エコアクション21」認証登録支援事業

主に市内中小企業者を対象に、「エコアクション21」の認証・登録に向けた支援を行い、企業の環境配慮活動を促進しています。

日中循環型都市協力事業（日中エコタウン協力）

北九州エコタウン事業の経験やノウハウを活用して、中国・青島市、天津市、大連市における循環型都市の取り組みに対する協力を、国レベルの事業として実施しています。



出典：北九州エコタウン事業 パンフレット（北九州市環境未来都市推進室発行）

北九州市視察：2. 次世代エネルギーに対する先駆的取組について

スマートシティの取組（八幡東区東田地区）

地域住民が参加し、賢くエネルギーを使いこなすまちづくり。
八幡東区東田地区では、北九州市 自然、水素、コジェネシステム実証
実験を行っている。（北九州市スマートコミュニティ創造事業）

■新エネルギー等10%街区

～まちの設計の中で新エネルギーを計画的に導入し、工場エネルギーを民生利用。



■街区まるごとの省エネシステム導入

～個別施設の効率的エネルギー利用と、まち全体のエネルギー利用の最適化を両立



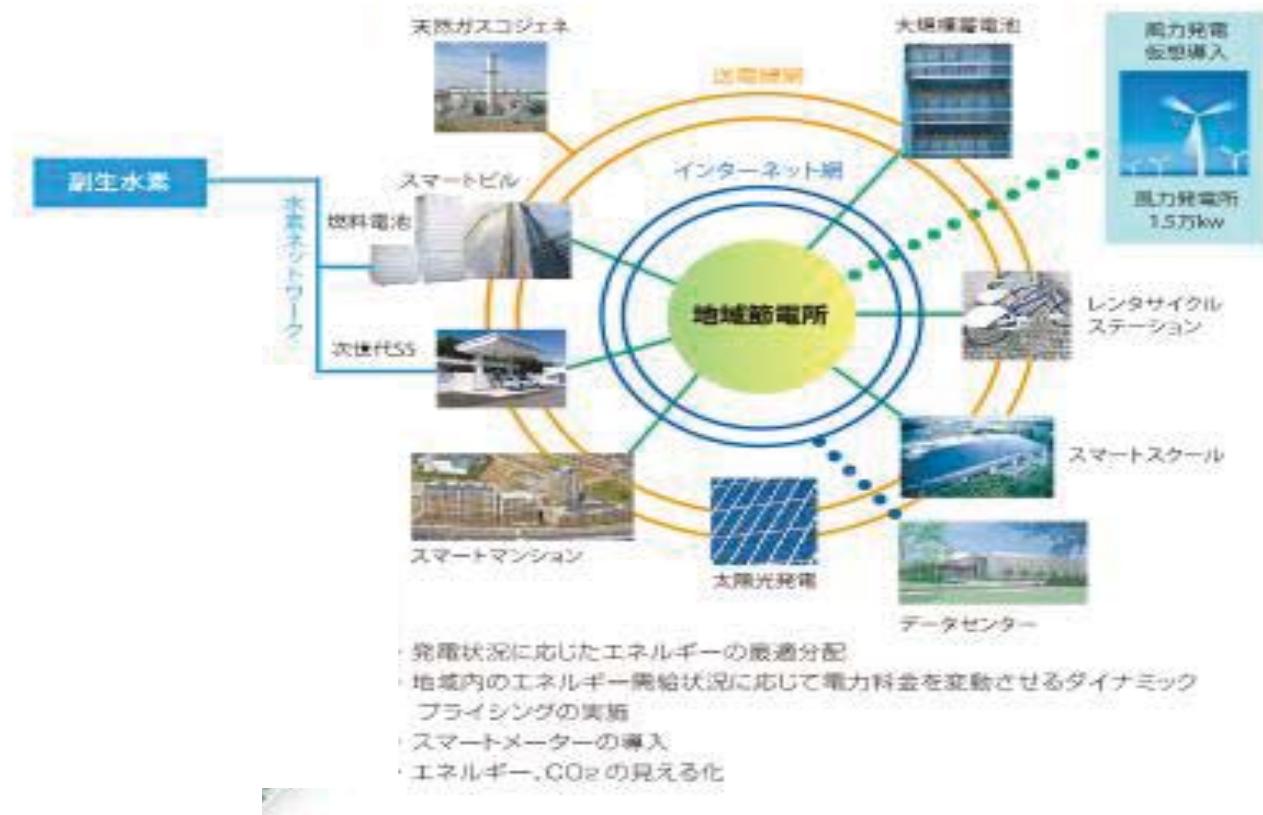
出典：北九州スマートコミュニティ創造事業パンフレット（北九州スマートコミュニティ創造協議会発行）

北九州市視察：2. 次世代エネルギーに対する先駆的取組について

スマートシティの取組（八幡東区東田地区）

■地域エネルギー・マネジメントの構築

「地域節電所」という新しい概念・仕組みのもとに、地域全体のエネルギー最小化、大規模ネットワークの総合保管の実現。



■次世代交通システムなどの地域社会づくり ～電気社会・水素社会に即した様々な社会システムを構築

●EV、pHVの大量導入、充電設備の整備

- 官民共同でEV、pHV等を300台程度導入
- 東田地区を中心に50ヶ所程度充電装置を設置
- スマートITシステム（課金システム等）を開発・実証



●東田グリーングリッドの構築

- 街区のデザイン、人の歩行動線を考慮した街路樹の整備や建築物の壁面・屋上緑化を推進



●公共交通機関との連絡システムの開発・導入

- 小型移動体、自転車等と公共交通機関との乗り継ぎ円滑化のため、ITを利用した大規模シミュレーションと最適化システムを開発・実証
- 病院等と連携し、高齢者に配慮したオンデマンド型コミュニティバスの導入



●「エコポイント」「環境学習」システムの整備

- 市民の環境行動の促進に向けたインセンティブとしてエコポイントシステムを整備
- エコツアーの体制整備、e-ラーニングやツイッター等の活用で実証状況を発信



出典：北九州スマートコミュニティ創造事業パンフレット（北九州スマートコミュニティ創造協議会発行）

北九州市視察：2. 次世代エネルギーに対する先駆的取組について

ごみの有料化と分別収集について

北九州市では、ごみの有料化を行ない、分別収集を徹底している。燃えるゴミ、燃えないゴミという分別ではなく、「家庭ゴミ」（中は10枚330円）と「プラスチック製容器包装」「かん・びん」「ペットボトル」という分類になっている。



環境未来税について

北九州市では、環境未来都市の創造を重点施策として、ごみの資源化・減量化・産業廃棄物処理施設の整備及びエコタウン事業などの様々な取組を推進しており、国内外から高い評価を得ている。

環境施策の積極的な推進のためには、持続的で安定的な財源確保が必要なことから、産業廃棄物の最終処分である埋め立てに課税し、その税収を様々な環境施策の費用の一部にあてる法定外目的税として環境未来税を創設。（平成15年10月1日に条例施行）

環境未来税の仕組み

納稅義務者	市長が許可した産業廃棄物の最終処分業者及び市内の自家処分事業者
課稅標準	納稅義務者が市内の埋立処分場で処分する産業廃棄物の埋立量
課稅の特例	税負担の公平性や税の簡素化の観点から、特に設定していません。
税率	平成18年度まで 500円（1トン当たり）（暫定税率） 平成19年度以降 1,000円（1トン当たり）（本則税率）
徵收方法	申告納付（毎月）
決算額	平成15年度 247,526千円（平成15年10月開始） 平成16年度 808,875千円 平成17年度 886,877千円 平成18年度 725,181千円 平成19年度 1,313,799千円（本則税率へ移行） 平成20年度 1,174,424千円 平成21年度 677,662千円 平成22年度 1,161,207千円 平成23年度 1,351,771千円 平成24年度 776,376千円

出典: 北九州市ホームページ
https://www.city.kitakyushu.lg.jp/zaisei/file_0057.html

北九州市視察：2. 次世代エネルギーに対する先駆的取組について

北九州市エコタウンセンター

北九州市響灘地区に集積したエネルギー施設の紹介をはじめ、エネルギーを幅広く学べる展示ルーム。北九州市内の環境関連事業や、環境配慮型製品「北九州エコプレミアム」の紹介を行っている。



全国でもトップクラス！ 世界が認める『北九州エコタウン』！

北九州市は1997年7月に国から第1号のエコタウンに選ばれました。北九州エコタウンは、環境の「教育・研究・事業」を総合的に展開しており、多くのリサイクル工場が集積しています。全国のエコタウンの中でも、リサイクルの種類や数はトップクラスで、実証研究エリアを持っているのも、北九州エコタウンだけです。その為、毎年、多くの方が見学に訪れています。

また、北九州エコタウンは、廃棄物を出さないゼロ・エミッションの社会づくりを目指しています。



“エコタウン”って何？

あらゆるごみを他の産業の原料として活用し、可能な限りごみをゼロに近づける資源循環型の社会を築く国の事業です。

2013年3月現在、全国で26自治体が選ばれています。

第1号認定／北九州市・川崎市・岐阜県・飯田市



資料:北九州市エコタウンセンター パンフレット

北九州市視察：2. 次世代エネルギーに対する先駆的取組について

北九州次世代エネルギーパーク

「次世代エネルギーパーク」は太陽光発電や風力発電などの新エネルギーを、実際に見て触ることを通じて、エネルギーの重要性や理解を深めることを目的として国が計画を認定し、地方自治体が整備運営を行うもの。北九州市は、2007年10月に国から第1号の「次世代エネルギーパークに選ばれた。多種多様なエネルギー施設が集積しており、企業間でのエネルギー連携や新しい技術開発などが行われている。日本最大級の規模・種類（太陽光発電・風力発電・石炭ガス化・バイオマス・水力発電・コジェネ・電力の企業間連携・蒸気の企業間連携）を誇る。



事業の内容と規模

●暮らしを支えるエネルギー供給

- ・コークス工場 製造能力 5,800トン/日
- ・石油備蓄基地 備蓄容量 560万㎘
- ・天然ガス製造工場 都市ガス製造能力 372万m³/日

●次世代を担う自然エネルギー

- ・風力発電 15,000kW、1,990kW
- ・太陽光発電 1,000kW
- ・小水力発電 68kW

●リサイクルから生まれるバイオマスエネルギー

- ・バイオディーゼル燃料製造施設
- ・食品廃棄物エタノール化実験施設

●エネルギーの企業間連携（地産地消）

- ・複合中核施設（廃棄物発電） 14,000kW
- ・コークス乾式消火施設（消火熱利用発電） 27,900kW

●エネルギー利用の革新技術

- ・石炭ガス化技術の最先端研究施設
- ・北九州学術研究都市：太陽光発電 150kW、燃料電池 200kW、天然ガスコジェネ 160kW

出典：北九州市次世代エネルギーパーク パンフレット((上)
資源エネルギー庁ホームページ(下)

エネルギー関連展示コーナーの整備、関係企業への施設見学受入も行っています。

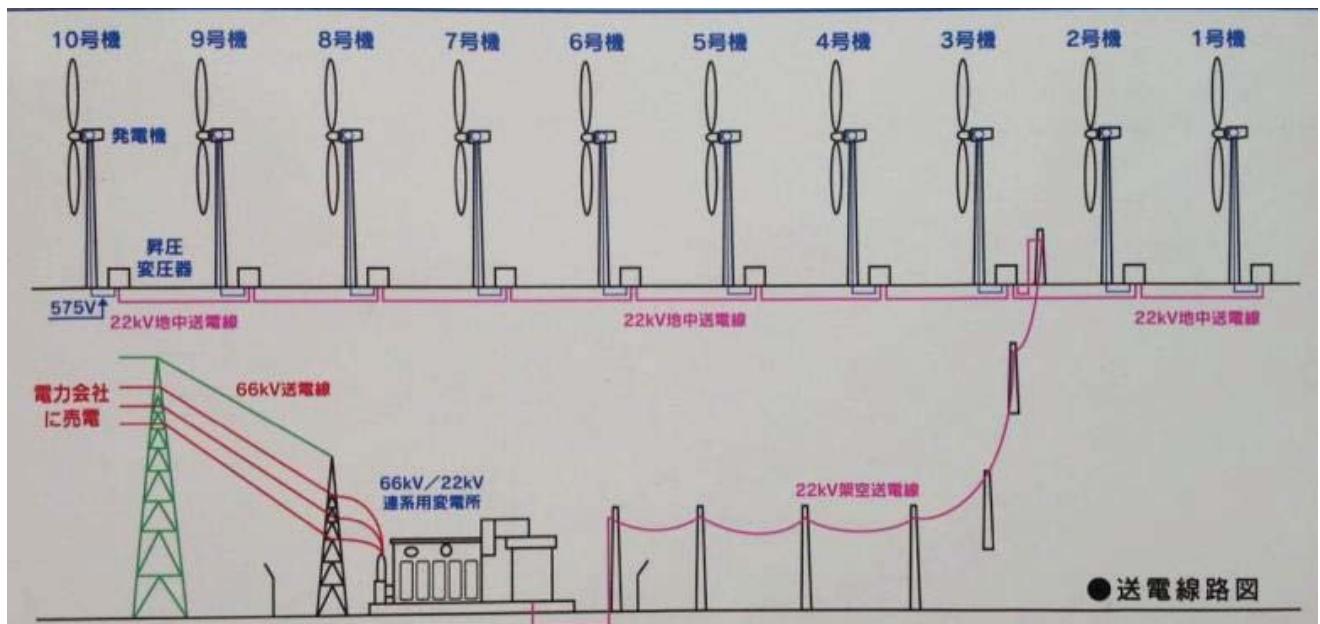
北九州市視察：2. 次世代エネルギーに対する先駆的取組について

風力発電事業見学（エヌエスウインドパワーひびき）

響灘風力発電事業は、北九州市響灘に面する日本初の港湾地区における風力発電事業であり、北九州市が建設を進めている環黄海圏ハブポート建設地に隣接する緑地帯で行われている。



- 総出力：15000kw (1500kw×10基)
- 年間供給予定量：3500万kwh
(約1万世帯分の年間電力消費力分に相当)



北九州市視察：2. 次世代エネルギーに対する先駆的取組について

太陽光発電（北九州市市民太陽光発電所）

北九州市市民太陽光発電所は、北九州市が市政50周年記念事業として、若松区響町に整備したもの。

発電所は、再生可能エネルギー拡大を目指す北九州市のシンボル的な施設として、響灘に面した埋め立て地に整備。

発電所の総事業費5億2000万円は、市民向けの公募債と市民からの募金で賄われている。

発電については全て九州電力に売電。年平均6000万円の売り上げが見込まれている。収益は緑化整備などにあてる。

【市民太陽光発電所 概要】

■面積：2.3ヘクタール

■パネル数：6650m²

（縦1.6m×横1m）

■年間発電量：135万kW

（一般家庭約400世帯分の使用量）

（参考：江東区若洲の風力発電の年間想定発電量は270万kW。電力会社へ売電され、多目的広場の街灯に活用）



【公募債】

■目的：市民太陽光発電所建設の財源

■総額：5億円

■対象：北九州市民・市内在勤者・市内の事業所



北九州市視察：2. 次世代エネルギーに対する先駆的取組について

所感

北九州市の環境行政については、北九州工業都市として発展し、日本の高度成長期をリードしてきた時期から、深刻な公害を、行政・民間・市民などが連携し、技術力を活用して克服してきた歴史的経緯も含め、大変参考になるものだった。

環境モデル都市に指定され、日本だけではなくアジア諸国の低炭素社会の推進・技術協力を行っていることなど、自分の自治体だけではなく公害克服の歴史・それによって生み出された技術やノウハウを広く社会全体に役立てようとする姿勢と積極的な取組は、江東区としても見習うべきものだと感じた。

次世代エネルギーパーク、風力・太陽光発電の取組については、広大な敷地や響灘の自然環境を活かしたスケールの大きいものであった。北九州市民太陽光発電所については、市政50周年記念事業としての公募債としての事業ということで、多くの市民に環境都市・自然エネルギーについて啓発していくためには非常に有効で参加意識の高い取組である。

江東区では、若洲の風力発電や、平成26年度以降取り組む予定である小水力発電など、次世代エネルギーに関する取組を行っており、環境情報学習館「えこっくる江東」など、北九州市同様に環境教育に力を入れており、東京都内では他の自治体をリードしている。

また、低炭素まちづくり計画として平成25年10月に改訂された「豊洲・グリーンエコアイランド構想」など、官民連携して環境に配慮したまちづくりに今後取り組んでいる計画もあることから、先進事例としての北九州市の取組を知ることは意義あるものだった。

江東区は、ごみ処理問題に関する経緯から、環境行政に力を入れており、環境学習など、啓発活動に力を入れていることは評価できる点である。今後は江東区内だけではなく、近隣自治体と連携し、率先して低炭素社会に向けた課題解決を行うという意識を持つことが必要である。それにより、本区の環境行政はさらに発展すると考える。

本視察で得た視点を、政策提言にいかしていきたい。

